

管内の在宅医療介護連携推進事業の取組状況について

1 在宅医療・介護連携推進事業の実施状況

市町村名	(ア) 医療・介護の資源の把握	(イ) 在宅医療介護連携の課題の抽出と対応策の検討	(ウ) 切れ目のない在宅医療介護の提供体制構築推進	(エ) 在宅医療介護連携に関する相談支援	(オ) 在宅医療介護連携に関する相談支援	(カ) 医療介護関係者の研修	(キ) 地域住民への普及啓発	(ク) 在宅医療介護連携に関する関係市区町村の連携
函館市	平成 27 年 12 月	平成 27 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 28 年 2 月	平成 27 年 12 月	未定
北斗市	平成 30 年 4 月	平成 27 年 8 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 27 年 8 月	平成 30 年 4 月	平成 28 年 12 月
松前町	平成 28 年 10 月	平成 28 年 10 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 10 月	平成 29 年 10 月	平成 29 年 10 月
福島町	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月
知内町	平成 27 年 10 月	平成 27 年 10 月	平成 30 年 4 月	平成 28 年 12 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 28 年 12 月
木古内町	平成 27 年 10 月	平成 27 年 10 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 27 年 10 月	平成 30 年 4 月	平成 28 年 12 月
七飯町	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 28 年 12 月
鹿部町	平成 28 年 1 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月	平成 30 年 4 月
森町	平成 27 年 10 月	平成 27 年 10 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 30 年 1 月	平成 30 年 1 月	平成 28 年 12 月

※1

※1 福島町はすべての項目でH30.4だが、開始日を条例で定めているため

※2 網掛け部分は、調査日以降も未実施の項目

2 現状

- ・(ア) 全市町で社会資源の把握(一覧表)はできている。
- ・(イ) 全市町で課題の検討をしており抽出もできている。
- ・(ウ) 各市町とも継続検討の議題になっているが、市町内医療機関や関係機関との連携はできてきている。「急性期から」を想定すると函館市内の医療機関との連携が必須である。現状では、個別支援レベルでの連携はできているが、連携体制の構築には至っていない。
- ・(エ) 地域ケア会議は定期的に開催され各市町内の医療機関・介護事業所が出席しているため、情報共有は図られている。また、町内の主な共有手段は電話が多い。
- ・(オ) 地域共有ツールについては医療機関中心での取組があり、松前町は町立医療機関・居宅介護支援事業所とのツールが完成し、木古内・知内・福島町は木古内国保病院とのツールを3町検討会で協議中である。町(地域)内ツールは町(地域)内での活用を想定しており、町外については、地域包括支援センターではそれぞれ(相手先)に合わせていく意向があるものの関係者との合意はまだ十分ではない。
- ・(カ) 相談支援業務はすでに各市町地域包括支援センターが担っており今後もその予定だが、正式に周知していないところもある。
- ・(キ) 各市町とも地域ケア会議等で関係者向けの学習会や事例検討を実施している。
- ・(ク) 在宅医療等に特化した住民周知・啓発はできていない。理由として、在宅医療体制が十分ではない(訪問診療をする診療所がない、訪問看護事業所がない、居宅支援サービスが少ない)中、住民への周知はできないと考えている町もある。
- ・(ク) 保健所主催の意見交換会、木古内・知内・福島町3町の検討会、職能団体等との意見交換会等に出席している。

3 函館市との連携について

<状況>

管内市町では在宅医療・介護連携推進事業をほぼ実施している状況であり、広域的な連携を要する場面は函館市内医療機関への入退院時であり、「はこだて医療・介護連携サマリー」の活用による連携が考えられる。

<課題>

- ・現状では、「はこだて医療・介護連携サマリー」を全市町内の共有ツールにしたいと考えているところは1ヶ所あるが、他は個別支援の中での活用になると考えている。
- ・医療介護関係者の情報共有ツールとして、自市町外での連携ルールをどのように設定するかは今後の課題と考える。
- ・今後、函館市で予定している連携サマリーの説明会には、各市町に参加を呼びかけることとしている。

<参考>

「はこだて医療・介護連携サマリー」に係る協議等の経過

日程	会議名等	内 容
H29. 6. 26	渡島西部地域包括支援センター意見交換会	情報共有ツールに関する状況把握
H29. 8. 28	函館市打ち合わせ	今後の方向性の確認
H29. 9. 5	在宅医療専門部会	函館市の取組について共有
H29. 10. 2	木古内・知内・福島町医療介護連携ネットワーク検討会	はこだて医療・介護サマリーの活用について検討
H29. 10. 23	函館市打ち合わせ	進捗状況の共有
H29. 10. 30	保険者(鹿部町・森町)意見交換会	自町外との連携状況の把握
H29. 10. 31	渡島西部地域包括支援センター意見交換会	情報共有ツールに関する状況把握
H29. 10. 31	3町ネットワーク検討会事務局打ち合わせ	広域連携に関する状況把握
H30. 2. 2	函館市打ち合わせ	進捗状況の共有、方向性の確認
H30. 2. 6	状況把握(北斗市・七飯町)	情報共有ツールに関する状況把握